

令和元年度（2019年度）

自己点検・自己評価 報告書

学校法人 福岡保健学院
小倉リハビリテーション学院

本報告書は、学校法人福岡保健学院 小倉リハビリテーション学院の令和元年度自己点検・評価活動の結果を記したものである。

令和2年3月17日

学院長 篠崎 康次
自己点検・評価責任者
副学院長 落合 裕之

<目次>

- 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像
- 項目Ⅱ 学校運営
- 項目Ⅲ 教育活動
- 項目Ⅳ 学修成果
- 項目Ⅴ 学生支援
- 項目Ⅵ 教育環境
- 項目Ⅶ 学生の受け入れ
- 項目Ⅷ 財務
- 項目Ⅸ 法令等の遵守
- 項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

【評定基準】

- S : 十分に達成している。 (達成度が高い)
- A : 達成している。 (概ね達成しており、明らかな改善は要しない)
- B : 達成がやや不十分である。 (若干の改善を要する)
- C : 達成が不十分である。 (不適合がある、明らかに改善を要する)

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

明確に定めていて、指定紙面に掲示している。職員評価からも専門分野の特性や教育目的・人材育成像も明確であるといえる。玄関にも掲示して周知を図っている。

しかし、理解度について、多数の方には理解していただいているが、少数の学生・保護者や説明する職員の理解度は統一されていない。

課題

職員や保護者への理解を今後一層深めていく必要がある。

改善の方策

学生便覧に記載している各種ポリシーについて、入学時保護者説明会をはじめとして、機会ある毎に丁寧に説明をしていく。

小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価：S

■コメント

教育理念の「共生」のもと、教育目標及び人材育成像を定めている。

小項目Ⅰ-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界（高校、病院、実習設など）に周知されているか。

■自己評価：A

■コメント

理念・目的・目標・人材育成像の他者への周知のために説明会も実施している。ホームページもわかりやすい内容へと修正を図った。今年度、学生便覧へ各種ポリシーの記載も行った。

小項目Ⅰ-3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価：A

■コメント

教育課程編成委員会や学校関係者委員会を通じて、人材要件を明確にしている。今後も継続的に他者意見を反映して、随行していく。

項目Ⅱ 学校運営

総括

職員の増加も踏まえ、組織体制の見直しを図り、役割分担を行った。各役割に応じて概ね役割分担を図ることができているのではないかと。

しかし、情報共有システムに関しては、データ量も多く、書式も含め整理して効率化を図る必要がある。

学生ポータルサイトの活用も増えてきている。

課題

さらなる効率化を図るにあたっては、学生ポータルサイトの活用増加やセキュリティ対策の強化が必要となる。

改善の方策

データの整理を行う。

情報の取り扱いに対する職員意識の向上を図る。

小項目Ⅱ-1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価：A

■コメント

年間目標を立て、前期・後期・通期と振り返りを行いながら運営することが出来ている。

小項目Ⅱ-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価：A

■コメント

会議や委員会業務は定期的に行っており、議事録の作成により周知を図ることは出来ている。今後、就業規則などの見直しを図っていく必要がある。

小項目Ⅱ-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価：A

■コメント

学事システムによる学生への成績開示や授業情報の伝達はスムーズに行えるようになった。セキュリティ対策を継続していく。

項目Ⅲ 教育活動

総括

今年度は新入生へタブレットを配布し、ICT教育を推進した。
また、授業評価に関して、評価後の教員による振り返り作業を追加した。

課題

ICTシステム活用の講義は増えたが、学生の意欲や理解度にどのように変化が起きたのか、効果検証の必要がある。管理方法についても継続課題である。

次年度から、指定規則が変更するため、カリキュラム全体の見直しやシラバスにもより詳細な内容を提示していく必要がある。

改善の方策

教員の実務経験に関しては、次年度シラバスへ記載を予定している。
学生満足度の確認に加えて、保護者アンケートも検討していく。

小項目Ⅲ-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価：A

■コメント

毎年、シラバス内容の見直し作業を行っているが、次年度に向けてカリキュラム全体も見直しを図っている。

小項目Ⅲ-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価：A

■コメント

実践的な指導を行うために、関連病院職員の協力による実技試験も年に2回程度行うことができた。また実技試験時に動画撮影を行うことで、学生がより客観的に振り返ることが出来る内容になった。

小項目Ⅲ-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価：S

■コメント

学生による授業評価や卒業時満足度の結果は概ね良好である。

教員評価は継続して実施しているが、結果をどのように反映できているかは個人差があり、今後は振り返り状況の把握や結果の公表などが課題である。

小項目Ⅲ-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価：A

■コメント

学習支援体制はセミナーとして年間計画を立案。これに加えて時間割外でも学修支援強化を必要に応じて実施した。既卒生に対しても国家試験に向けて1年間を通して定期的に指導していく体制を設けている。

小項目Ⅲ-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価：A

■コメント

教員に対する研修や学会参加の体制に関しては、参加しやすい環境となっており、全員の自己研鑽の場を設けている。また、学会・研修参加後の報告も随時行い、他教員への周知も行うなど先端的な知識の習得も図っている。

今後も、より教育力を向上できるような取組みを増やしていく必要がある。

項目Ⅳ 学修成果

総括

国家試験への取り組みでは、学院長による指揮の元、チームスローガンを掲げて定期的に集会を行うなど、意思統一を図りながら進めていくことが出来た。

しかし、退学者低減に向けては、こまめな面談や職業イメージを持たせるような講義等を導入してみたものの、退学者は一定数存在し低減には至らなかった。

課題

国家試験に向けて、読解力を身に着ける学習の強化が必要。また、全教員が学生の小さな変化に気づく力、学生・保護者に対する適切な対応力を養い、教員間での学生情報の共有を図り、遅刻や欠席なども含めた学校生活・学習面・心理面での支援体制の充実ができるよう、今後も改善が必要である。

改善の方策

教員としての姿勢や対応方法など、研修会を行いながら強化を図る。退学理由の分析を行い、入学時の状況と照らし合わせながら具体的な支援方法を検討する。職業イメージを持たせる取り組み内容を再度見直す。

国家試験や就職についての支援は1年次からの計画を立案していく。

いては改善していく必要がある。学生や保護者アンケート等実施し、更に意見を集約しより良い学習環境を整えていきたいと考える。

課題

スクールカウンセラーの利用ニーズは高くなってきているが個別のアナウンスにとどまっている。

改善の方策

学生の変化をとらえるために、学生日報などを活用していく。入学時や保護者説明会時等、スクールカウンセラー体制についての告知を強化する。

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価： S

■コメント

進路就職支援に対し積極的に行っている。1年次から意識をさせる必要性を感じ、セミナー等で学生に知らせている。

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価： C

■コメント

学生面談を定期的に行っているが、教員間での情報共有や相談時の対応などに個人差があり、学生相談体制としては不十分であると考えている。外部からのスクールカウンセラーも週1回配置しており、利用頻度も増加傾向にある。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価： A

■コメント

成績不良者や休みがちな学生に対し、随時保護者面談も行っている。しかし、保護者からの意見を集約することまでは行っていない。

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価： S

■コメント

高校との連携を取り、理学療法体験や作業療法体験を地域の学生を招いて行っている。

小項目 IV-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価： A

■コメント

就職に関しては「年度内就職内定100%」の目標を掲げ、前期に新たな就職セミナーを実施するなど、就職活動に対する学生の意識を高めた。また、早期から活動に取り組むよう担任を中心に働きかけ、例年より早い就職内定状況であった。

小項目 IV-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価： A

■コメント

国家試験においては「合格率100%」の目標を掲げ、実習中も含めた国家試験対策のスケジュール・内容等の工夫を行った。また、学年集会を10月以降毎月実施し、院長・職員からの激励により学生の意識を高めることができた。その結果、当校の課題であった基礎分野の点数は向上した。

小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価： B

■コメント

退学率については「進級率95%以上」を目標に掲げ、担任・学年主任を中心に学生面談・保護者連絡などを行っているが、成績不振や対人ストレス等を理由とした退学者の低減には繋がらなかった。

小項目 IV-4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価： B

■コメント

学生の社会的活動については、担当職員を配置し学内での掲示はしているが、学生全員への周知という点では不十分であると感じる。また、活動実績は把握しているものの、それを評価・表彰する体制が現在は設けられていない。

項目V 学生支援

総括

学習支援体制は昨年よりも強化したが、退学者も複数名いたため、学生相談体制につ

また、高校の運動系部活動と連携し、スポーツ分野における理学療法士としての活動を実践するとともに、部活動支援も行っている。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価： A

■コメント

特に、夜間部に関しては学校独自の修学支援システムを組んでおり支援を図っている。高等教育修学支援新制度の認定を受けることも出来、次年度入学生への対応を行っている。

項目VI 教育環境

総括

全館LED化や図書室レイアウト変更など学生が過ごしやすい環境へと整備を行った。実習施設に関しても、次年度の指定規則変更を見据えた依頼を開始するなど、体制整備に努めている。

課題

学習スペースは確保しているものの、学生個別指導や面談を行える場所が時期により不足しており、今後検討が必要である。老朽化した備品などについては新規購入計画中である。

改善の方策

学生サロンのレイアウト変更などを行っていく。

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価： A

■コメント

施設、整備などは関係法令に適合し、整備されている。図書館など空きスペースは学習を行いやすい空間としてリニューアルした。

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価： A

■コメント

実習支援セミナーの実施、実習施設・指導者との密な連絡や実習前後の会議の開催な

ど、十分な教育体制がなされている。しかし、指導者の教育力や教員間の情報共有などについて不十分な点がある。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価： A

■コメント

防災訓練は2回実施しているが、災害発生時の対策教育は改善の必要性がある。防災設備の点検整備は適切に行われているが、防災マニュアルの整備と職員への周知徹底は十分ではない。

項目VII 学生の受け入れ、募集

総括

高校ガイダンス等に出向き、学校の広報活動を積極的に行っている。また職業イメージを持ってもらう為、実際の理学療法士・作業療法士の仕事現場への見学会も関連病院の協力のもと実施している。国の修学支援制度の要件も満たし、ホームページや文書等で告知も行っている。

課題

入学試験の願書提出に関し、Web出願制度を設けているため提出書類等理解し易い様に内容変更を行ったが、今年度は利用がなかった。再度見直しを行っていく必要がある。

改善の方策

学校の情報（職種内容や学校生活、就職先など）や入学試験システムについて、高校生が理解しやすい内容へと随時修正を図り、ホームページのアクセス数を増やしていく。

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価： A

■コメント

入学後の学生の状況（在学中の生活・卒業後の就職先）を報告する為、学院長を中心として高校訪問を行っている。

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価： A

■コメント

就職先に関して学内掲示はしているが、ホームページやパンフレットには、詳細掲示が出来ていない状況である為、資格取得後の就職先等把握出来る様、今後リストを掲示する予定である。

項目Ⅷ 財務

総括

館内老朽化に伴う環境整備など、必要な支出も多いが、優先順位を踏まえた購入計画を立てている。日報チェックも複数名で行っている。

課題

職員への財務周知に対しては、専門的な知識が必要なため、理解困難との意見もあがっている。

改善の方策

全職員が財務に関する認識を持つために、監査実施状況報告を今後は行っていく。

小項目 Ⅷ-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価： A

■コメント

財務基盤については、ここ数年入学者も安定しており、収入は上がっている状況である。

小項目 Ⅷ-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価： A

■コメント

予算については、昨年の実績を考慮し、また今年度については適切かつ妥当な見込み額で予算案を作成しているが、予算編成と決算のバランスについては若干のずれが生じているが、妥当な範囲内だと考えられる。

小項目 Ⅷ-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価： S

■コメント

3ヶ月に一度会計士による監査を実施し指導に従って財務処理をしている。

項目Ⅸ 法令等の遵守

総括

法令、設置基準等に基づき学校運営を行っている。変更等については、会議を進めながら職員全体で審議を行っている。

また、ハラスメント防止規定も設けられており研修も行われている。

課題

個人情報の取り扱いについて、随時指導は行っているが特化した時間を設けることが出来ていない。今後、定期的に行っていくなど教育活動として徹底していく必要がある。

改善の方策

個人情報のみではなく情報リテラシーについても入学時からホームルームやセミナーなどの時間を設けて説明していく。

小項目 IX-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価： S

■コメント

学院長を中心として適切に管理されている。

小項目 IX-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価： A

■コメント

個人情報保護について、教職員に対しては、就業規則等に規定を設け、各自に「個人情報に関する誓約書」を提出させている。

学生に対しては、学生便覧等に個人情報の取り扱いに関する規則を明文化し、指導を行っている。

項目Ⅹ 社会貢献・地域貢献

総括

近隣の中学校、高等学校への人材派遣（部活動支援や職業体験）などの地域貢献も行っている。特に、部活動支援を昨年より頻繁に行った。

また、ボランティアの窓口となる教員を配置し、案内の全館掲示やクラス毎へのアナウンスなどの参加の呼びかけの強化を行った。学友会を中心に学院～最寄り駅周辺までの清

掃活動を教員も参加し、年に2回実施している。

課題

実施状況の把握や教員間での周知は不十分である。

改善の方策

学生ボランティア参加状況などを定期的に教職員間で確認し、実施状況の把握を行う

小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価：A

■コメント

学院祭時は地域への案内を行い、周辺地域との連携、地域への開放を実施している。今年度も多くの来場者があった。また、研修会などで会場として貸し出しを行っている。

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価：A

■コメント

1年生対象に、ボランティア協会講師による講話を行ってもらい、意識づけの強化を行った。しかし、昨年以上の参加数とはならなかった。